

研究の現場から

第二回 年次学術大会を開催

モラロジ―と専門の視点から
道徳的諸問題に迫る

道徳科学研究所 研究員
年次学術大会企画・運営担当

竹中 信介

道徳科学研究所（以下、道科研）では、九月四日～六日、生涯学習センター二〇一教室において年次学術大会を開催しました。研究員各自の専門領域から、倫理・道徳をめぐる諸問題にアプローチし、学術的かつ実践的な視点から全員で議論を深めました。

当大会では毎年、所属の研究員が一同に会し研究発表を行っています。今年も合計二四名の研究員がその成果を報告しました。以下に内容の一部を紹介します（全プログラムについては一覧表をご確認ください）。

廣池千九郎とモラロジ―の研究

モラロジ―の創作者である廣池千九郎（二八六六～一九三八）の思想や事跡に関する研究については、これまでにも多数蓄積されていますが、今回の研究発表から一例を挙げると、廣池による「心身相関説」の議

論を現代の科学的知見を踏まえて再検討する報告がありました。最高道徳の主眼である「精神作用（心づかい）」が身体（健康や寿命）にいかなる影響を及ぼすのかという議論は、学問上および実践上も重要かつ興味深いものであり、道徳の実行を考えるうえで示唆に富むものです。

また、廣池の法學上の師である穂積陳重（二八五五～一九二六）と廣池との交流に光をあて、その思想的・学問的な影響関係を分析する報告がありました。穂積の「法律進化論」が、廣池の「道徳進化論」に与えた影響についての指摘は、モラロジ―の成立を考えるうえで重要であると考えられます。廣池が「最も恩人として尊敬する」穂積から受けた学問的影響は大きく、モラロジ―の「学統」を知るうえで見過ごせないものといえるでしょう。

AIや老年学など
現代的諸課題へのアプローチ

道科研では、さまざまな社会的課題の研究を進めています。今大会では、「AI（人工知能）」をめぐる問題や、超高齢社会の日本における「老年学」の役割についての議論がありました。

AIをめぐる倫理的課題としては、雇用・労働に関わる問題や、その根底にある判断や意思決定に関わる問題があります。「AIによって仕事が奪われるのではないか」という懸念がありますが、報告の中で述べられたように、AIと共存していくためには、「AIと人間の役割が明確にされ、最終的な決定は人間が下す」という原則を維持する必要があります。しかし同時に、AIが人間の手を離れて独立し、暴走するのではないか、という危惧はフィクションの世界だけのものでしょうか。引き続き、AIをめぐる動向を注視していきたいと思えます。

次に、日本では平均寿命が年々伸びており、「人生百年時代」と言われて久しいですが、長く生きる分のしわ寄せとして、心身の衰えと尊厳の維持の問題、介護の負担の問題など課題が山積している現状も見過

《令和5(2023)年度 道德科学研究所 第3回年次学術大会》
9月4日～6日 於：生涯学習センター 研修館201教室

日程	発表者	テーマ
9月4日	立木教夫	道德の起源と進化：初期人類はいかにして道徳的心的メカニズムを獲得したか
	竹中信介	食の倫理学ノート
	Jason Morgan	Derek ParfitとErich Przywara — 道徳には客観的な基盤はあるか？
	横田理宇	SDGsの策定がCSR情報開示と活動に与える影響 — 傾注とコミットメントの視点から
	橋本富太郎	廣池千九郎の国体論 — 廣池千九郎における穂積陳重 結論
	小山高正	廣池千九郎の感情(情動)への関心と心身相互作用論への取り組み
	Peter Luff	Chikuro Hiroike, the Meiji Restoration and Morality in Japan
	木下城康	「場所論」とキャリア構成理論の比較分析 — 客観性と主観性の統合
	山岡鉄秀	重光葵、石橋湛山、廣池千九郎の平和主義 — 忘れられた偉人たちの共通点
9月5日	大塚祐一	企業における新たな自己規定としてのパーパス
	大野正英	AIがわれわれに問いかけるもの
	中山 理	老年学とウェルビーイング
	梅田 徹	道徳的因果律をどのように理解すべきか？
	足立智孝	医療者養成教育における人文学教育の意義 — 看護学教育を参考にして
	冬月 律	人口減少社会における信仰継承の現代的課題 — 先行研究や実態調査を軸に
	竹内啓二	モラロジーを個人倫理学・人格倫理学に加え社会(公共)倫理学へ — 水野治太郎氏の提案から学ぶ
	田島忠篤	道徳と宗教に関する研究の中間報告
	アブドゥラシディ・アブドゥラティフ	「伝統」について考える — 日本在住イスラーム教徒(ムスリム)のネットワークをめぐって
9月6日	犬飼孝夫	徳は孤ならず必ず隣あり — 社会的孤立をめぐる諸課題
	川久保剛	「アフター・リベラル」の大学教育をはじめめるためのスケッチ
	江島顕一	モラロジーを凶解する — 道徳の見える化
	高橋史朗	ウェルビーイング教育についての一考察
	宗 中正	最高道徳の本質を学ぶための要点の検討 — “unconditional” と「伝統の原理の教育」について
	矢野 篤	研究者資料の利用と保存

ごせません。そのような状況において、「老年学」の役割が注目されます。老年学では、社会とのつながりを保ちつつ、心身のウェルビーイング(肉体的、精神的、社会的に満たされ、それが持続している状態)をめざす方向性が示されているようです。

報告で取り上げられた言葉に、「老年的超越」という用語がありました。これは高齢者が体験する「宇宙的、超越的なつながり」を指し、先祖や子孫とのつながりの意識が強まることや、生と死の区別が弱まることで死の恐怖が消えることなど、高齢期(特に八〇、九〇代以降)の特徴を指します。このような内容を含む老年学の発展により、希望が持てる社会が到来することが期待されます。

今回の研究発表の内容については、さらに洗練・発展させたいと、令和六年二月十七日(土)、十八日(日)に柏で開催を予定している「道德科学研究所フォーラム」の場で皆様と共有し、さらに議論を深めていきたいと思っております。

【お問い合わせ先】

道德科学研究所 事務局

電話 04-7173-3252

Eメール rc@moralogy.jp